

はじめに

旧石岡市民会館は昭和43年に開館し、市民が文化芸術活動を楽しみ交流を深める場として親しまれてきましたが、老朽化と耐震性能の問題により令和2年3月に閉館しました。市内には音響や照明など専門的な設備を備えた施設は限られており、市民の多様なニーズに応えるためにも、多目的に利用できる新たな複合文化施設(市民ホール)の整備が必要とされています。

本市では、令和5年7月に「複合文化施設整備基本構想」を策定し、その後も有識者や市民と議論を重ねてきました。本基本計画は、これらの検討を経て、市民ホールの建設予定地や機能、整備方針をまとめたものです。

なお、本基本計画は、計画策定時点での考えを基に検討し、取りまとめたものであり、社会情勢や事業の進展に伴い、変更となる可能性があります。

1章 整備方針

1 基本理念

新たな活力で 輝く未来へ
「文化」「ひと」「地域」の交流拠点

市民ホールは、地域文化をはじめとするあらゆる文化・芸術を継承、交流、発信する文化拠点であるとともに、人々が集い、互いに絆を結ぶ交流拠点を目指します。また、市民ホールの利用、あるいは市民ホールでの活動を通じ、文化・芸術と、市民をはじめ本市にかかわるすべての「ひと」や地域社会との交流を促進することで、新たな活力を生み出し、文化・芸術の創造・発展・承継に取り組むとともに、さらに石岡市を輝く未来へと導くまちづくりの原動力としていきます。

2 基本方針

- 1 身近な文化・芸術の拠点づくり
- 2 あらゆる「ひと」に開かれた空間と交流の拠点づくり
- 3 賑わいを生み出す拠点づくり
- 4 時代のニーズに柔軟に対応できる空間づくり

2章 施設計画と機能構成

ホール機能

機能や規模の異なる2つのホールを設置し、幅広い用途に応じて柔軟に活用できる計画とします。

メインホール

- ・概ね800席の可動式座席を配置する計画とします。
- ・舞台の大きさは旧市民会館を参考に、多様な用途に対応できる十分な広さを計画します。



釜石市民ホール (座席収納時)

サブホール

- ・概ね200席の椅子が配置できる平土間形式として計画します。
- ・メインホールの舞台と同規模の広さを備えた空間を検討します。



釜石市民ホール (平土間使用時)

関連諸室 (ホワイエ、楽屋等)

- ・利便性や機能性を高める動線計画を検討します。
- ・広さの異なる楽屋を複数設け、利用形態の柔軟性を検討します。

屋外機能

広場

・日常的なコミュニケーションの場として、あらゆる世代が憩い、楽しめる広場を計画します。

駐車場

・概ね500台を計画します。

駐輪場

・概ね100台を計画します。

ホール以外の機能

市民ギャラリー

・作品展示等を通じて地域の文化芸術活動を発信できる空間を計画します。

アトリエ・工作室

・美術制作活動に適した作業空間を計画します。

音楽スタジオ

・音を出す部屋として完全防音で計画します。

和室

・日本の伝統文化を実演できる空間を計画します。

デジタルスペース

・eスポーツ等、デジタルコンテンツの活動が可能な空間とします。

キッズスペース

・子どもたちが楽しく遊べる空間を検討します。

調理室

・料理教室等を行うための空間を計画します。

民間テナント

・自由に時間を過ごし、交流を深めるためカフェ等を配置できる空間を計画します。

学習スペース

・学生や社会人がコワーキングスペースとして利用できる空間を計画します。

会議室

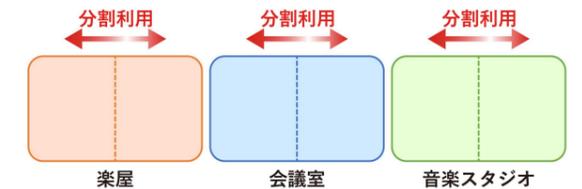
・可動式の間仕切りや、視覚的なプレゼンテーション等を活用できる設備を検討します。

空間・動線計画

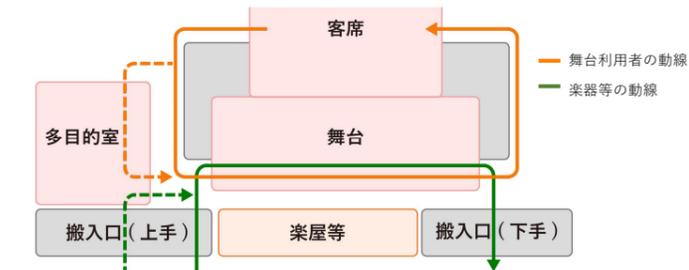
(1) 機能の共有化により利便性を高める空間計画
「メインホール、サブホール、ホワイエ」の共有化を考慮し、利便性・機能性を高める空間計画を検討します。



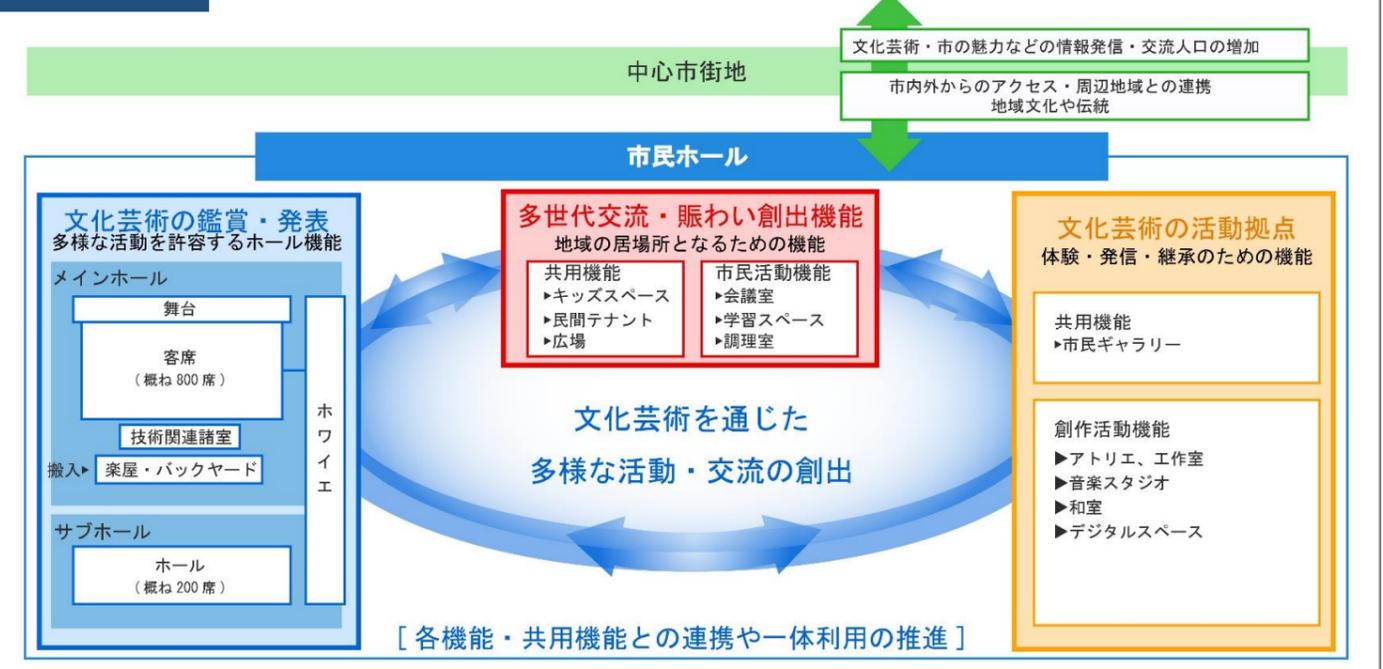
(2) 柔軟な利用形態に対応する空間計画
各諸室は可動式の間仕切り壁を採用する等、多様な利用形態に対応する柔軟性の高い空間計画を検討します。



(3) 利便性を考慮した動線計画
一般利用者及び舞台利用者等の動線計画の効率化を図り、施設全体の利便性を高める動線計画を検討します。



機能関連図



1 建設予定地の比較検討

建設予定地は、本市が定める「石岡市立地適正化計画」や「石岡市中心市街地活性化基本計画(第3期)」等との整合性を図り、有利な財源を活用するために、都市機能誘導区域(石岡市街地)に存する①いしおかイベント広場、②鹿島鉄道跡地、③市営駅東駐車場の土地を候補としました。

様々な観点から比較検討を行った結果、3つの候補地の中で地盤の強度や敷地面積の広さに優位性があり、騒音や振動の問題が少ない点などから総合的に判断し、建設予定地を「いしおかイベント広場」とします。



2 建設予定地の概要

建設予定地である「いしおかイベント広場」は、JR石岡駅から約1km、徒歩で約15分の距離に位置し、国道355号にも近接しているため、車でのアクセスも便利な場所です。

周辺には、特別史跡「国分寺跡」や看板建築など、歴史的及び文化的資源が多く残されており、住宅地と混在しながら中心市街地を形成しています。

市民ホールの建設が実現することにより、公共施設との連携を図りつつ、さらなる利便性の向上や地域のにぎわいの創出につながることを期待されます。

所在地	石岡市若宮三丁目400番地4
敷地面積	27,478.24 m ²
用途地域	第一種住居地域 ※用途地域の見直しが必要
建蔽率・容積率	60%・200%
地盤状況	支持層：地表より18m程度 ※出典石岡市複合文化施設建設基本設計業務地盤調査報告書(H19.3月)
埋蔵文化財の有無	国分遺跡の範囲内 (H19年に一部発掘調査実施)

1 防災計画

利用者が安全に施設を利用でき、災害時においても施設を継続して利用できる計画とします。

また、国土交通省「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」に準じ、構造体はⅡ類、建築非構造部材はB類、建築設備は乙類の性能を有する計画とします。

災害時には一時的な避難スペースや物資の保管場所として機能する計画とし、防災備蓄倉庫などの設置を外構計画と併せて検討します。

2 環境性能

国土交通省「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」(建築物省エネ法)に定める、ZEB Ready水準の省エネルギー性能を満たした建物として計画します。

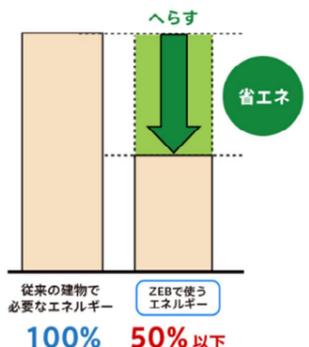
また、持続可能な建物づくりを目指し、創エネ設備の導入や内装材の木質化を含めた環境性能の向上について「基本設計・実施設計」で検討していきます。

ZEB Readyの定義(環境省HPより)

再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物

ZEB Ready (ゼブレディ)

省エネで50%以下まで削減



管理運営の方針

新たな活力を創出する多種多様な自主事業を、積極的に企画・運営します

時代のニーズに柔軟かつ効率的に対応する管理・運営体制を構築します

子どもから大人まで多くの人々が文化芸術に関わる機会を創出し、石岡市らしい特色のある施設運営をします

取り組む中心事業

自主事業

鑑賞事業

普及啓発・育成事業

創造事業

交流連携事業

情報発信事業

貸館事業

新たな活力を生み出すさらなる事業展開へ

- ・運営方式は「指定管理者制度」の導入を目指します。
- ・市民参加型の事業を充実させるとともに、今後策定する「管理運営計画」で、施設運営の一部を市民に担ってもらう具体的な仕組みの検討を進めていきます。

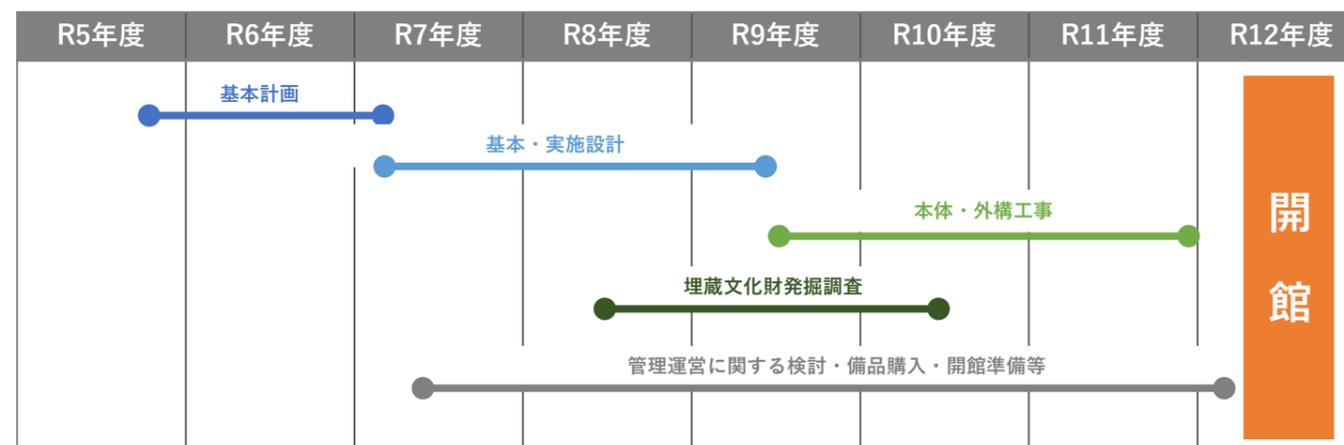
- ・事業手法は「従来方式」を基本とします。
- ・市の取り組むべき重要な施策(事業)との調整を行いつつ、「有利な財源の確保」と「歳出の抑制」に取り組みます。

・想定する財源

都市構造再編集集中支援事業交付金、合併特例債、公共事業等債、石岡市複合文化施設整備基金、一般財源など

概算事業費

設計費	5.4億円
施設整備費	62.0億円
外構整備費	4.7億円
備品購入費	2.6億円
埋蔵文化財発掘調査費	3.1億円
合計	77.8億円



※従来方式による想定